



各 位

平成19年11月9日

クニミネ工業株式会社
代表取締役社長 國峯 保彦
(JASDAQ・コード 5388)
問合わせ先 取締役総務部長 小山 孝志
電話番号 03-3866-7255

平成20年3月期中間（連結・単独）業績予想の修正について

平成20年3月期中間（平成19年4月1日～平成19年9月30日）の業績予想について、平成19年5月18日付当社「平成19年3月期決算短信」及び平成19年6月29日付当社「特別利益及び特別損失の発生と中間・通期（連結）業績予想の修正について」において発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成20年3月期連結業績予想の修正

中間期（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	4,576	68	68	△ 235
今回修正 (B)	4,732	△ 24	66	△ 299
増減額 (B-A)	156	△ 92	△ 2	△ 64
増減率	3.4%	—	△ 2.9%	—
前期（平成19年3月中間期）実績	4,593	△ 103	△ 11	△ 42

2. 平成20年3月期単独業績予想の修正

中間期（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	4,576	67	67	70
今回修正 (B)	4,731	△ 1	33	21
増減額 (B-A)	155	△ 68	△ 34	△ 49
増減率	3.4%	—	△ 50.7%	△ 70.0%
前期（平成19年3月中間期）実績	4,313	△ 61	△ 10	△ 13

3. 修正理由

連結、単独ともに売上高は、ベントナイト事業につきまして、鋳物は、一部に弱い動きが見られるものの全体としては自動車の生産台数が引き続き好調に推移、価格改定等の影響も寄与して大幅な増収となりました。土木建築関係は、前期から続いた都市再開発やマンション関連の需要増等により増収となりましたが、ペット関係は個人消費の伸び悩みを背景とした低価格競争が厳しく減収となり、全体としては当初予想より増収となりました。アグリ事業につきましては、農薬の市場ニーズが粉剤から当社で従来より製造している粒剤へシフトしたため受注が増加し、溶出制御剤も引き続き堅調なことから、当初予想より増収となりました。化成品事業につきましては、環境保全処理剤が市場悪化により、また、クニピアにつきましては前期好調に推移した輸出の反動により、前期に比べ大幅な減収となり、当初予想に対しても減収となりました。

以上の結果、全体としては当初予想より増収となりましたが、価格改定等の寄与が下期中心となることから原材料価格の値上がりも吸収しきれず、営業損失を計上することとなりました。さらに、子会社における投資先からの受取配当金が当初見込みを上回ったものの、為替差益が大幅に減少したこと等により、経常利益並びに当期純利益につきましても、減少いたしました。

なお、通期の見直しにおきましては、ベントナイト事業につきましては、適正な価格への改定に加え、原材料の見直し等のコストダウンの諸施策を引き続き推し進めるとともに、化成品事業部門につきましても、環境保全処理剤やクニピアの積極的な拡販、止水材の海外展開の推進や新商品投入等による国内販売の強化により、売上及び利益の確保を図ることから、当初予想の変更はございません。

以上